

きょういく さど



令和3年3月16日
第75号
佐渡市教育委員会
学校教育課

一陽来復

教育長 渡邊 尚人

新型コロナウイルスによる感染が全国に拡大し約1年が経過しました。丁度1年前に政府から慌ただしく、学校の一斉休業が要請され、その対応に休日返上で追い回された記憶が蘇ります。未だ首都圏などでは2回目の緊急事態宣言が継続されています（3/4現在）。一方で、日本国内でもワクチン接種が一部で開始されるなど希望ももてる状況も見えています。

教職員の皆さまには、通常の業務に加え消毒作業や検温、「3密」を避けるための業務などが加わり、学習活動ばかりでなく学校行事や部活動、働き方や業務形態にも大変なご苦労をおかけしました。佐渡市教育委員会でも同様に通常の業務に加え、国の一次補正、二次補正の業務が加わりその対応に追われました。学校現場をはじめとする関係者の皆様のご協力に感謝申し上げます。

「一陽来復」という言葉があります。“冬が終わり、春が来ること。新年が来ること。また、悪いことが続いた後で幸運に向うこと”（goo辞典より）を意味し、易に由来しています。正に、今、この時期にぴったりの言葉です。

学校では、感染症対策予算も一定程度確保し、マスク、手洗い、消毒など感染症対策に配慮しながら学習活動や学校行事を継続しています。また、ICT教育環境の整備が一気に進み、一人一台のタブレット端末も今年度末には配置されます。教員の働き方改革も少しずつ進んできています。まだまだ課題は多くありますが、一つずつ着実に教育環境は変化しています。「一陽来復」、学校と保護者、教育委員会がしっかりスクラムを組み、新しい“福”を呼び込みたいと願っています。

ピンチをチャンスにかえた効果

管理主事 森 和人

令和2年度は、新型コロナウイルス感染防止対策に追われた1年となりました。この長いピンチの中、各学校では感染を広げないように、常に危機感をもって対応してくれました。徹底した予防対策に感謝いたします。

一方で、このピンチから生まれた学校経営上の効果があると思います。それは、教員の働き方改革につながるものです。

例えば、学校行事の見直しです。内容の縮小により時間を短縮しても、行事がもつ目的を十分達成させることができると実感したのではないのでしょうか。また、行事の精選へとつなげる学校もありました。

他に、待ったなしに進んだGIGAスクール構想によるICT教育環境の整備があります。全教員がうまく活用できるまでは、研修等を介してしばらく時間が必要ですが、慣れれば教材準備や評価などの時間が短縮されるでしょう。また、オンラインによる会議や研修の参加形態の促進により、島外への出張が減ったり、広いエリアを要する島内移動が省かれたりします。

臨時休業期間には、時差出勤や在宅勤務の実施を認めました。時差出勤は、今後の長期休業中の働き方に生かせる取組でした。在宅勤務については、今後も国の動向を注視していきます。

今年度、佐渡市では新型コロナウイルス感染の拡大は見られませんでした。感染予防の習慣は、インフルエンザ等、他の感染症の発症も抑えました。この習慣化も貴重な効果です。ピンチをチャンスに変えたこれらの効果を、しっかり活かしていきたいものです。

令和2年度学力向上各校の取組

指導主事 小田 俊裕

令和2年度の佐渡市学力向上取組の重点は以下の3点でした。

- ①授業改善（授業の充実）
- ②家庭学習習慣の確立と充実
- ③補充的な学習の充実

市内小中学校において、それぞれの実態に合った様々な取組が行われました。

「授業改善」に向けて、教員一人一人が互いに授業を公開し合い協議する公開授業研修はもちろん、管理職による日々の授業参観と指導、大学教授等の外部指導者を招聘しての研修会の実施等、各校忙しい中でも確実に時間を設定して工夫を凝らした研修を実施していました。

「家庭学習習慣の確立と充実」のために、中学校区で連携した「家庭学習強調週間」、「ノーメディア週間」等が実施されました。また、各校で「家庭学習ガイドブック」や「自主学習カード」等を活用し、児童生徒の自己マネジメント力を高めるための取組が行われました。

「補充的な学習の充実」に向けて、「〇〇タイム」等と称した15分程度の補充学習時間を毎日設定した学校や、異学年の児童生徒が教え合える「学び合いタイム」を設定した学校がありました。また、放課後に残って学習する児童生徒への支援を開始した学校もありました。

そして、先生方は日々子どもたちを認め、励ましの言葉を掛けていました。児童生徒一人一人の自己肯定感を高め、学習意欲を喚起して下さっていたのは言うまでもありません。今年度の佐渡市の先生方の学力向上に向けた取組に心より感謝いたします。

今年度の振り返り、次年度への展望

教育指導主事 市橋 良夫

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症への対応から、これまで異動で初めて当市に赴任した小中学校教職員を対象とした「新着任者研修」（4月）を始め、問題行動対応としての生徒指導研修（5月）、学力向上に向けた新規の研修（6月）の3回が中止となりました。上記の結果、開催した研修は9講座、参加数356名となりました。また自主研修として個人の研修テーマに基づき課題解決に向け取り組んだ2つの研究（小の国語、体育）を行いました。



8月開催の「介助員合同研修会」は市特別支援教育研究協議会と連携して運営し、120名を超える多くの参加がありました。

新年度は、昨年の小学校に続き中学校でも新学習指導要領が全面実施となり、新しい教科書を用いた授業が始まるのに加え、国のGIGAスクール構想による全小中学校へのタブレット端末の導入となります。日々の授業の中でこのICT機器の有効活用を通して児童生徒の主体的で深い学びの実現、情報発信能力や表現力の一層の育成を図ることが求められます。教職員への支援としてICT研修を基礎編と応用編の2回開催する予定です。また、今年度実施できなかった学力向上に向けた研修は、研修室へのネット環境の構築を進め、初めてZOOMを活用しての研修として実施する予定です。

令和3年度の学校評価の取組について

来年度の佐渡市教育委員会への共通報告項目は、今年度に引き続き右の2項目です。キャリア教育や体力向上の取組等については、報告の必要はありませんが、各校においてPDCAサイクルのもと実施、評価、改善をお願いします。

- ① 学力向上の取組の充実
- ② いじめ・不登校を生まない学校づくり